

2022年6月3日(金曜日)の産経新聞に 「ウクライナ支援」について掲載されました!

令和4年(2022年)6月3日 金曜日

産 経 新 聞

「パンの缶詰」 ウクライナ支援

隣国避難民に空輸 おいしいと好評

那須塩原の製造会社

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化の様相を呈する中、那須塩原市のパン製造会社「パン・アキモト」が隣国のポーランドに逃げた避難民に「パンの缶詰」を届ける活動を続けている。ポーランド入りしている一般財団法人「日本国際飢餓対策機構」のスタッフを通して「パンの缶詰」を配布したところ、柔らかな食感や多彩な風味が好評に。支援要望を受け、4月に続き、5月にも第2便の200箱（1箱15缶）が発送されるなど、支援が続いている。

(伊沢利幸)



ウクライナの避難民に送られている「パン・アキモト」のパンの缶詰と秋元義彦社長
那須塩原市の「パン・アキモト」



第1便ではウクライナの避難民にパンの缶詰100箱が贈られた—4月25日、那須塩原市の「パン・アキモト」(同社提供)

阪神大震災きっかけ
「パンの缶詰」は、最長37カ月という保存期間と焼きたてのような柔らかさを

同立したパンで、オレンジやブルーベリーなど味も9種類と豊富だ。同商品が生まれたのは、平成7年の阪神大震災における被災者支援がきっかけだった。震災発生時、同社が菓子パンなど2千食分をトラックに積み、数日かけて神戸に到着したが、無添加のパンはカビが生え、食べられないパンも少なくなかった。

この経験から同社は「乾パンのように長期保存ができ、焼きたてのようなパンを作りたい」と開発に着手。試行錯誤の末に商品化に成功した。

その後同社は流通過程にある同商品を賞味期限の半年前から回収することにし、地震や洪水などの被災地や飢餓に苦しむ発展途上国などに非政府組織（NGO）を通して届ける取り組みを続けてきた。今回のウクライナ避難民支援も、これまでの取り組みの一環という。

輸送費寄付募り継続

きっかけは今年3月、避難民支援のためポーランド入りした同機構のスタッフが、日本から持ち込んだ同社のパンの缶詰（約100箱）を避難所で配布したところ、「柔らかくておいしい」「味がいろいろあってうれしい」など好評だったのだ。

同機構は同社に支援を要請。同社もこれに応じ、4月下旬に第1便として100箱（1箱24缶入り）を空輸した。課題は1箱当たり約1万

円かかる輸送費だった。同社はホームベースなどで1口5千円からの寄付を募集。すると、目標だった300箱分の輸送費300万円をわずか10日で達成してしまっ

た。ウクライナ情勢の長期化を見据え、同社は支援を継続することに決めた。当初6月末までの募集期間を12月末まで延長し、現在は1千万円を目標に寄付を募っている。

秋元義彦社長は「避難しているウクライナの人たちに喜んでもらえて本当にうれしい。さらに支援の輪を広げ、パンの缶詰を届けていきたい」と話した。